

■ 飼育員お手製 巣台設置

2月17日、まもなく迎える繁殖期を前に、つがいがかごの中に入れて、巣台を設置しました。早速中に入り確認している様子。お気に召したでしょうか？



実はこの巣台、飼育員が手作りしたものなのです！ケージの中は自然界と違い、巣を作る場所となる枝の股のような箇所がありません。そこで止まり木に巣台を設置して巣作りを促します。今年は巣台1つを新調しました。



材料は飼育員が採取してきたクスのツル。力を入れて直径約65センチもの大きさに編んだものです。とっても細やかな作業、まるで民芸品のかこのようです。



来月にはケージの中に巣の材料となる小枝や草、コケなどを置きます。つがいはこれらを巣台の中に運び入れ、巣全体の形を作ると共に、卵を産む場所「産座」を作っていきます。

また、つがいも産卵へむけた準備のため、交尾をする際にオスとメスが接触させる「総排泄腔」周辺の毛刈りを行いました。毛を刈ることで有精卵率を上げようというものです。



つがいの様子は、ライブカメラを通してトキと自然の学習館のモニターで観察することができます。

■ 冬の鳥について学ぼう！

2月23日、トキと自然の学習館の自主事業「冬の海鳥観察会」を開催しました。



長岡市内の親子が参加し、冬の寺泊海岸に生息する海鳥の観察や自然環境について学びました。

この日は強風に見舞われたため、観察は寺泊水族博物館の屋内展望室で行われました。海は大しけでしたが、『ウミネコ』や『オオセグロカモメ』など、カモメの仲間が荒波の上を勇敢に舞う姿を見せてくれました。



長岡野鳥の会の講師から、「ウミネコは足が黄色でオオセグロカモメはピンク色」、「羽が茶色なのは幼鳥」などの説明を受け、参加者はその姿を追いかけ確認していました。



観察した海鳥たちは、天候がおだやかだと岩場で休んだり、漁船を追いかけ沖合に出たりします。目の前で飛び交う様子を観察できたのは強風のおかげだということです。

悪天候が味方となり、厳しい環境をも楽しんでいるように飛翔する海鳥を見ることができました。

トキと自然の学習館では「ハクチョウの故郷」と題して、講師の渡辺さんからロシアで撮影したハクチョウの巣やヒナの写真を紹介していただきました。



ハクチョウが産卵する地域は冬に入ると水面が凍り、エサをとることができなくなります。ヒナは生後2か月で4000キロも離れた日本などへ移動しなければなりません。



新潟の田んぼでも見かけるハクチョウが、厳しい自然環境の中で生き抜くために飛来していることを教えてもらいました。